

# 新年のごあいさつ



大府市長  
岡村 秀人

新年のごあいさつを申し上げます。市民の皆さまにおかれましては、お健やかに新年をお迎えのことと、存じます。

本市は、昨年9月1日に先人のたゆまぬ努力と市民の皆さまのお力添えの下、市制施行50周年という大きな節目を迎えることができました。ここに厚く感謝を申し上げます。

昨年7月、厚生労働省が取りまとめた、平成25年から平成29年までの本市の合計特殊出生率は、県内で最も高い1.93を記録しました。これまで、子育て世代が安心して暮らすことができるまちづくり特に力を入れて取り組んできたことが、50周年の節目の年に成果として現れましたことは大変喜ばしいことであります。今後も子育て支援策のさらなる充実を図り、高い出生率を維持・向上させるとともに、2030年の人口10万人都市を目指してまいります。そして本年は、次の50年に向けて新たな1歩を力強く確実に踏み出すため、昨年延期をいたしました市制50周年記念事業に新たなスタートにふさわしい付加価値を持たせた「市制50周年プラス1記念事業」を実施できればと考えています。

明けましておめでとうございます。

市民の皆さまにおかれましては、健やかに希望に満ちた新春をお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。

昨年を振り返りますと、世界中で新型コロナウイルス感染症がまん延し、私たちの生活様式が大きく変わった年となりました。このような中で、本市はスピード感を持って独自の支援策や体制を整え、対処に当たってまいりました。この困難に立ち向かい、今後も市民の皆さまの生命、身体および財産を守るため、議会としての役割を果たしていきたいと思っております。

また、昨年は市制50周年という節目を迎えた年でもありました。市議会においても、感染症の影響によって祝賀行事が縮小されている中、少しでもお祝いの機運を盛り上げようと、9月議会の初日に全員で記念ポロシャツを着用して議会を行いました。昭和45年に市として誕生して以来、恵まれた立地条件や自然とのバランスがとれた都市として発展し、その住みよさから人口は今でも年々増加し、大きく成長を続けています。これまで先人たちの苦勞や努力によって受け継がれてきた大

きて、新型コロナウイルスの感染拡大により、かつてない危機的状況に直面する中、テレワークやオンライン授業などのデジタル化の普及をはじめ、私たちの生活様式は大きく変容せざるを得ません。また、いわゆる8050世帯や介護と育児のダブルケアなど個人や家族が抱える課題が複合化・複雑化しています。自治体を取り巻く社会環境の大きな変化と、多様化する市民ニーズにきめ細かに対応するため、本年4月から市役所の組織を改正し、情報化推進室や福祉総合相談室など、市の重点施策を強力に推進する部署を新設するとともに、機能的かつ重層的な推進体制を構築し、新たな時代に即した行政運営に努めてまいります。

新型コロナウイルス感染症により、市民の皆さまにおかれましては不自由で不安な毎日をお過ごしのことと存じますが、明けの夜はあります。必ずや夜明けが来ることを信じて、明るく前向きな気持ちでこの危機を乗り越えましょう。そして、この1年が皆さまにとって希望にあふれる1年になりますことをご祈念申し上げ、新年のごあいさつといたします。

府市の魅力を高めるべく、次なる節目の市制100年に向けて、市民の皆さまに愛され、いつまでも住み続けたいと思っていたことができると、大府市を目指し、まちづくりに取り組んでまいります。

今年開催予定の東京五輪では、新しい生活様式の中で、本市にゆかりのあるスポーツ選手が多数出場予定をしております。選手たちの活躍を期待するとともに、私たちの希望となり、明るい未来を照らしてくれると信じております。

私たち市議会といたしましても、時代の潮流を捉え、市民の皆さまの期待に応える行政の推進と、すべての世代の市民にとって持続可能な明るく住みよい「健康都市おおぶ」のさらなる実現に向け、議員一同、尽力していく決意を新たに致しております。

結びに当たりまして、本年が市民の皆さま一人一人に、実りある、幸せの多い年となりますよう心からご祈念申し上げますとともに、一層のご協力をお願い申し上げます。議会を代表しての年頭のごあいさつといたします。

本年もよろしくお願ひ申し上げます

令和三年 元旦



大府市議会議長  
山本 正和